

桜陽高校だより

卒業生に贈る

校長 笈川 巧



校 訓

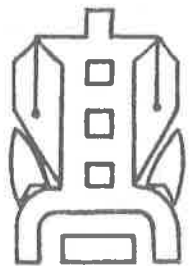
賢く 強く 豊かに

学校教育目標

- (1) 研學に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

降り積もった雪が街全体を覆っていた小樽においても、春が近いことが一日と感じられるようになり、いよいよ卒業生の門出の日を迎えました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして、この三年間本校の教育活動にご理解とご協力を賜りました保護者の皆様にも心からお祝いと感謝を申し上げます。特に昨年十月に行われた体育祭におきましては、PTAの皆様から飲み物の差し入れをいただきました。また後夜祭の花火打ち上げに関わり、財政的支援もしていただきました。心より感謝申し上げます。

さて、卒業生のみなさんは、高校三年間のうち、二年間がコロナ禍の中でした。失ったものでできなかったことを数えたらきりが無いのではないでしょう。か。進路活動が忙しく、高校生活をゆつくり振り返る時間もないまま、ここまで過ごしてきたのではないかと思います。特に三年次生として過ごした



目 次

- P1 学校長
- P2 3年次
- P3 2年次
- P4 退職挨拶
- P5~7 部活動報告

第104号

令和4年

3月1日発行

のは、臨時休校などもあり実質半年間程度でした。その中で桜陽祭は中止となりましたが、高体連、高文連、体育祭などにおいて、次年度につなげる役割を果たそうとする思いや意気込みは一年次生・二年次生に伝わったと思います。ありがとうございました。令和四年度、後輩達は誰も経験したことがない状態で桜陽祭を創り上げていくこととなります。機会があったらぜひ小樽まで見に来て、評価してあげてください。

ところで、これから卒業生のみなさんは社会に出ていくこととなりますが、その暮らしの中でぜひ心に留めておいてほしいなと考えていることが二つあります。

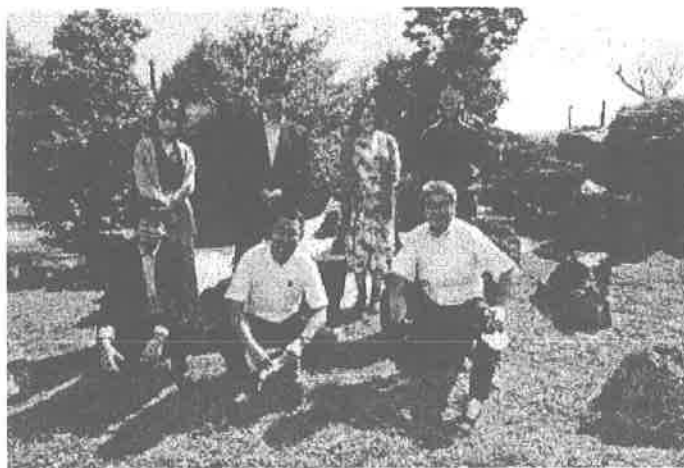
一つ目は、本業以外で「自分が楽しい、おもしろいと思うこと」を探して、挑戦してみる「こと」です。本業とは違いますから、もしかしたら今すぐ何かの役には立たないかもしれませんが、他人から理解されないかもしれません。しかし、楽しくて夢中になったことで、そこから、将来何かの役に立つこともあり得るのではないかと思います。さらに、そのおかげで辛いこと、苦しいことがあっても気持ち切り替えることができ自分の居場所を見つけることができます。

二つ目は、「出会いを無駄にしないこと」です。親との出会いから始まり、これまで一体何人の人たちと出会ってきたでしょうか。結果として良い出会いばかりとは限らなかったかもしれませんが、つらい思いをしたこともあるかもしれませんが、これまで多くの人が「出会いの大切さ」を説いています。有名な「一期一会」という言葉はよく耳にすると、思います。このことは、多くの人が出会いから学び、出会いが人生を変えることがあることを知っているからだと思います。「出会いを大切に」と言ってしまうと、ありがたみに聞こえるかもしれませんが、出会いによって新たなことを知ることが新たな学びにつながり、みなさんの人生がますます豊かなものになっていくことを心から願っています。

結びになりますが、これまで本校の教育活動にご理解とご支援を頂きましたPTA、桜陽会をはじめ地域の皆様に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健康を心よりご祈念申し上げます。

卒業生に向けて

三年次主任 森平 晶



私事ですが、昨年八月のとある日（植地先生の誕生日）に息子が産まれました。普段美術室にて向かいの視聴覚室で保健の熱い授業をしている小川先生（私と同じ生年月日）の有難い話を聞いていたので、妻の高齢出産にかなりビビりながら、当日病院で出産に立ち合いました。若い頃ちよつとした採血や献血で具合悪くなるような情けない私でしたが、妻の気迫と緊張感

と使命感とを共有し、その神聖なる瞬間をしっかりとこの目で見届けることができました。

大泣きしながら生まれ出た赤子を見た瞬間、なぜか少し涙が出ました。昔親父を亡くした時にも泣きました。が、それとはまた違う、不思議な涙でした。

「親の心子知らず」とはよく言ったものです。かく言う自分も、狭くて暑くてヤンキーのいる地元広島から一刻も早く外に出たくて、高校卒業と同時に四国高知（もつと暑い陸の孤島）の大学へ進学させてもらい、就職先に選んだのは涼しい北海道でした。海外ではないからましじゃがといいながらも帰省は数年に一回です。

これまで自分は親の愛情や苦勞というものをわかつたつもりでいました。（今でも「北の国から、87」の泥の付いた一万円札のシーンは回想するだけで涙が出ます。）それがほんの数か月、乳児と生活を共にしただけで、世間の親がわが子に対してどれほどの労力と気苦勞とそして愛情を注いでいたのか、というのを今さらながら思い知りました。

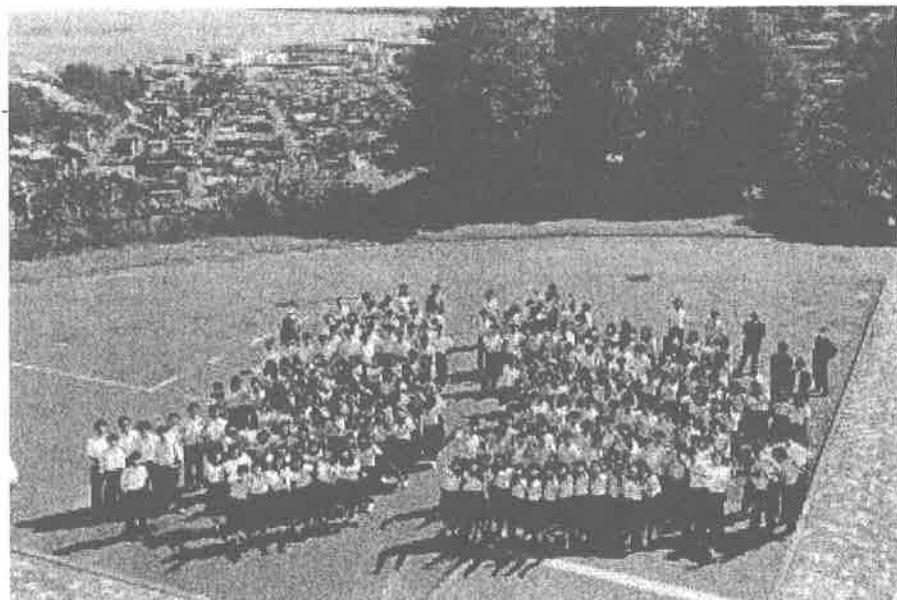
いまそこで当然のように椅子に座り、つまらなそうにこの文章を読んでいる十八歳前後のあなた。吉村先生も同じようなことを言っていました。が、この十八年間、あなたを産んでくれた親が、また育ててくれた親が、ここへたどり着くまでにどれほどの労力と気苦勞とそしてとめどない愛情を注ぎ続けてきたのか、そしてそれがどんなに大変で気の遠くなるようなことだったのか、ちよつと想像してみなさい。

「親の心子知らず」。自分がそうだったように、実際に親になつてみないと実感は湧かないかもしれません。が、せめて想像すること位はできると思えます。

高校卒業を迎えるみなさん。今日はそういうことに思いをはせる日です。

（あとできれば新生活をスタートする前に「北の国から、87」を観てください。できれば一人きりで。）

心から卒業おめでとうございます。



見学旅行を終えて

二年次主任 寺本 宜生

十二月四日から七日まで三泊四日の日程で見学旅行に行ってきました。コロナ禍の中での実施ということで、例年と行き先も時期も全く異なる旅行となりました。私も経験のないことであり、ある意味で思い出深い見学旅行となりました。今回の桜陽だよりでは、今年の見学旅行を変更するまでの経緯と、旅行後に行った見学旅行の生徒アンケートを通して見学旅行の様子を振り返りたいと思います。

まず、行程についてです。今回は、行き先を例年の関西方面から九州方面へと変更しました。三月に年次主任の引き継ぎを受けた際、一番最初に言われたことが、このことでした。「コロナ禍であるが、とにかく何とか行くことができるようにしたい」、「行き先を関西方面から変更することを検討をしている」、「直前に変更すると、キャンセル料が発生するので、できるだけ早く決めたほうがよい」という内容でした。そこで、四月に見学旅行の行き先をどうするか話し合う中で、「関西のままで、何かあったときに変更できなくなる可能性が高い」、「全道の高校の話を聞くと、もう関西から場所を変更している」、「行程を変更した高校の話では、九州の見学旅行は悪くないようだ」、「見学する場所と内容を考えると、九州が妥当ではない

か」ということから、場所を九州に変更することとしました。次に、日程ですが、当初予定の十月から十一月では、予算的に三泊三日の行程となってしまう、満足な見学旅行ができなくなるということで、時期をずらすようとなりました。そこで、いつ実施できるかを学校行事と、飛行機やホテルの予約状況とを照らし合わせて検討したところ、実施可能な時期は十二月しかない、ということになり、今年の見学旅行は十二月に九州へ行くということとしました。

次に、アンケートの集計から見学旅行の様子を振り返りたいと思います。



行の様子を振り返りたいと思います。全体を通してみると、見学旅行について生徒は概ね満足したことがうかがえます。特に「見学旅行でなければ、なかなか九州には行かないと思うので良かった」、「関西から場所が変わって、最初はびっくりしたけど、九州に行けて良かった」という回答が多くありました。私も行程を変更して生徒がどう感じているか気になっていましたが、旅行中の様子を見ても、楽しそうな表情をしている生徒も多く、九州に行ったことに対して満足していることから、本当に実施できて良かったなど感じています。また、見学先では、各自の希望で選択したハウステンボスと軍艦島が生徒にとって評価の高いものとなっています。ハウステンボスでは「とても楽しかった。もつと時間がほしかった」、「軍艦島では「上陸できてよかった。貴重な体験ができた」という声が多く寄せられています。更に、どちらのコースでも「もう一回行きたい」という声も多数あがっています。今回の見学旅行はコロナ禍であり、生徒が楽しみとする自主研修は計画できませんでしたが、代替のコース別研修で楽しむことや、有意義な時間を過ごすことができたことは、私もうれしく感じます。その他の見学先でも概ね生徒の満足度は高いものがあり、熊本城では「お城を初めてみるのができて、感動した」、原爆資料館では「心が痛くなった。悲しくなった」という感想を書いている生徒もいました。各見学先で「日本の歴史の勉強になった」といっ

た回答もあり、生徒にとっては楽しむだけでなく、学びの面でも得られるものがあつた見学旅行になったのでは、と感じています。

最後になりますが、このような社会情勢の中で見学旅行を実施しましたが、保護者の方をはじめとして、多くの方々のご協力とご尽力がなければ実施できなかったと感じています。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



退職される教職員の方々

小樽と桜陽高校の思い出

校長 笈川 巧

令和二年に足寄高校から赴任しました。二年という短い在職期間で思い出すのはコロナ感染に関わる事が多いです。しかし決して楽しいことではないので、コロナ以外の思い出などを通して、小樽や桜陽高校についての思い出などを少しでも残してあります。記したいと思います。

赴任したところ、当時放送局の顧問をされていた増子先生にお願いして、放送局が作成した映像作品のDVDを数本貸していただきました。桜陽高校にまつわるものから、小樽、後志に関わる多岐にわたる内容で、大変興味深く、勉強になりました。次のような内容でした。

・卒業式に合わせて桜陽ホールに飾られてきた「ひな人形」の歴史
・桜陽高校の「セーラー服」の歴史
・「運河埋め立て反対運動」、桜陽高校卒業生山富美さんの反骨精神
・小樽の「消火栓」の色の違いとその背景
・「中野植物園」、親子代々の物語
・小樽港防波堤生みの親「廣井勇」、市民に意外と知られていない運河公園の廣井勇像

・余市のリングゴ「緋の衣」、リングゴ侍と押揃えながらも栽培した会津藩士たちの苦勞

これらの作品を見てから、市内を散歩する時の意識が変わっていききました。消火栓の色を気にするようになり、運河公園近くを散歩した時は廣井勇像を探しました。運河を眺める時はその歴史を意識するようになりました。残念ながら中野植物園に行くことはできませんでしたが、改めて小樽の長い歴史を重ねてきた奥深さを感じました。これらの作品を作り上げた放送局のみなさんに感謝したいと思います。

また、昨年の暮れだったと思うのですが、北海道新聞に桜陽高校の関係者に関わる記事を見つけた。その方は園井恵子さんという女優の方でした。本校の前身である小樽高等学校二年の時に宝塚歌劇団に入団して活躍され、その後は別の劇団に所属して舞台、映画で活躍されました。そして一九四五年八月六日、当時所属していた移動劇団の拠点であった広島で被爆し、八月二十一日に放射線障害のため三十二歳で亡くなったそうです。ますますの活躍が期待される年齢だったことを考えると、園井さんの無念は想像すらつきません。そして、放課後桜陽記念ホールから聞こえてくる、スタインウェイピアノの

響きは心地よいものです。二〇二二年はこのピアノが製作されて百年目を迎えます。現役であることが貴重です、次の世代に大切に伝えないでいて欲しいと願っています。

この二年、小樽や桜陽高校という名やゆかりのある人物などについて見聞きする機会が多かったように感じています。私が小樽出身ではなく、見るもの、聞くものを新鮮に感じたからかもしれないませんが、桜陽高校にはたくさん財産があると感じています。生徒のみなさん、これまでの財産を次の世代につなげるとともに、新たな財産を増やしていただきたいと思います。

お世話になりました

教諭 吉村 尚貴

時の流れは早いもので、私が桜陽高校に赴任してから二十四年の月日が経ちました。気が付けばもう退職という年となりましたが、まだまだ実感が湧きません。この間、多くの生徒、先生方、保護者の方々に支えられて何とかやってきましたが、本当にお世話になりました。

振り返ってみると、二十四年前と言えば私自身も三十七歳の若手教師（桜陽高校では）で、右も左も分からないまま夢中で教員生活を送っていました。念願のラグビー部の顧問となり、学級担任としても生徒と共に汗を流しながら、日々を過ごしていました。

その間、桜陽高校も一〇〇周年を迎え、新校舎（現在の校舎）も完成して、節目の年に立ち会えたことは大きな思い出となりました。（ちなみに一〇〇周年も経験しています）また、ラグビー部も、数名の部員でスタートしたのですが、徐々に部員も増え、気がつけば全道大会の常連校となり、全国大会に選手を派遣するような部に成長しました。OB・地域の方々や保護者の方々とも楽しく活動したことも鮮明に覚えています。学級担任も四期、都合十二年間にわたり卒業生を送り出すことができ、授業なども含めると、いったい何人の生徒と関わったのか想像出来ません。

このように考えてみると、私自身の二十四年間は桜陽と共にあり、私を「人間として」「教員として」成長させてくれたのも、桜陽高校とそこに关わる方々でした。そんな桜陽高校に私が何を残せたかはわかりませんが、皆様の記憶の片隅に少しでも残っていると幸いです。

考えてみると、桜陽高校での二十四年間は、私の人生の三分の一以上、桜陽は私の「心の故郷」であり、「教員としての母校」であり続けることだと思います。本当にお世話になりました。

「桜陽よ永遠なれ。」

部活動大会結果

九月～一月

(文化系)

書道部

高文連全道書道展・研究大会

全道出品

田中あうり
菅野沙南

美術部

高文連全道美術展・研究大会

全道出展 (全道入選)

松岡愛唯



演劇部

高文連後志支部発表大会

「テツノナツ」優秀賞

軽音楽部

全国高校軽音楽部大会

「We are Snaker Ages」

北海道地区動画予選会

優秀校賞

写真部

高文連全道写真展・研究大会

全道出品「雨の雫」

原田みかん

放送局

高文連放送コンテスト

後志支部大会

アナウンス部門

園部 1位
佐藤 2位

朗読部門

吉田 8位
神尾 9位

ビデオメッセージ部門

2位

オーディオメッセージ部門

1位

高文連放送コンテスト

北海道大会

アナウンス部門

園部 参加
佐藤 参加

ビデオメッセージ部門

出品

オーディオメッセージ部門

出品

新聞局

全国高等学校総合文化祭

(東京大会) 新聞部門

北海道代表推薦

全道高等学校新聞コンクール

手書き・ワープロ部門

特別賞

(体育系)

弓道部

小樽支部新人大会

男子団体戦

女子団体戦

男子個人戦

本間

優勝
2位
3位

北海道高等学校弓道選抜大会

南北北海道大会

男子団体戦

男子個人戦

本間 予選敗退



サッカー部

小樽地区新人ユース大会

優勝



U-18フットサル選手権大会

小樽地区予選会

予選敗退

全道フットサル選手権大会

小樽地区予選会

2位

ソフトボール部

全国高等学校ソフトボール

選抜大会北海道予選会

1回戦敗退

山岳部

スポーツクライミング

北海道選手権大会

吉田 優勝

全国高等学校選抜スポーツ

クライミング大会

女子 吉田 29位

スポーツクライミング

ボルダリングユース

日本選手権倉吉大会

女子ユースA 吉田 23位

スポーツクライミンググリード

ユース日本選手権南砺大会

女子ユースA 吉田 17位

スポーツクライミング

ボルダリングユース

日本選手権葛飾大会

女子ユースA 吉田 22位

柔道部

小樽支部秋季新人戦

男子団体戦

2位

男子個人戦

81kg以下級

嶋田 1位

角間 2位

女子個人戦

無差別級

浅見 1位

金田 2位

全国高等学校柔道選手権大会

北海道大会

男子団体戦 1回戦敗退

女子団体戦 1回戦敗退

男子個人戦

73kg級

嶋田 1回戦敗退

81kg級

角間 1回戦敗退

後藤 1回戦敗退

無差別級

田口 1回戦敗退

酒井 1回戦敗退

女子個人戦

52kg級

浅見 1回戦敗退

金田 1回戦敗退

ソフトテニス部

北海道高等学校新人

ソフトテニス大会

女子個人シングルス

藤原 1回戦敗退

男子個人ダブルス

山口・加我 1回戦敗退

男子個人シングルス

山口 1回戦敗退

加我 1回戦敗退

小樽支部高校新人戦

インドアソフトテニス大会

男子ダブルス

山口・加我 優勝

女子ダブルス

三島・本間 3位

卓球部

秋季小樽支部新人大会

男子学校対抗 2位

女子学校対抗 優勝

男子ダブルス

和田・安田 2位

女子ダブルス

田村・山本寧 優勝

男子シングルス

和田 2位

女子シングルス

山本寧 優勝

田村 3位



北海道卓球選手権大会

ジュニア男子シングルス

和田 4回戦敗退

安田 2回戦敗退

高橋 2回戦敗退

ジュニア女子シングルス

田村 3回戦敗退

山本寧 3回戦敗退

三上 1回戦敗退

混合ダブルス

安田・三上 2回戦敗退

男子ダブルス

安田・和田 2回戦敗退

女子ダブルス

田村・山本寧 2回戦敗退

一般男子シングルス

和田 2回戦敗退

安田 1回戦敗退

ボート部

全国高等学校ボート新人大会

男子ダブルスカル

前山・向井 優勝

(全国高等学校選抜)

ボート大会(3月)出場

男子シングルスカル

南 準決勝進出

中条 予選敗退

高橋 1回戦敗退

一般女子シングルス

田村 2回戦敗退

山本寧 2回戦敗退

北海道高等学校選抜卓球大会

男子学校対抗 2回戦敗退

女子学校対抗 2回戦敗退

男子ダブルス

安田・和田 2回戦敗退

女子ダブルス

田村・山本寧 2回戦敗退



テニス部

小樽支部秋季大会
個人戦

男子シングルス

山形

優勝

女子シングルス

宮村

優勝

阿部

2位

男子ダブルス

山形・土屋

2位

北海道高等学校秋季
テニス大会

個人戦

男子シングルス

山形

1回戦敗退

女子シングルス

宮村

1回戦敗退

阿部

1回戦敗退

男子ダブルス

山形・土屋

2回戦敗退

選手権大会小樽地区予選会

男子

4位

女子

3位

小樽地区秋季選手権大会

男子 1回戦敗退

女子 2位

新人大会小樽地区予選会

男子 1回戦敗退

女子 2位



バドミントン部

小樽地区秋季選手権大会

男子団体 2位

女子団体 4位

個人戦

男子シングルス

市川

優勝

男子ダブルス

市川・嶋屋

ベスト8

女子ダブルス

土岐・金田

ベスト8

バレーボール部

全日本選手権大会小樽地区予選会

男子 準優勝

女子 3位

小樽・後志新人戦大会

男子 3位

女子 3位

北海道高等学校新人大会

小樽地区予選会

男子 3位

女子 3位

野球部

秋季大会小樽支部予選

2回戦 桜陽10-5 後志連合

準決勝 桜陽8-5 倶知安

決勝 桜陽0-10 北照

ラグビー部

北海道新人大会小樽支部予選
桜陽 0-40 潮陵 2位



陸上部

全国高等学校駅伝競走大会

北海道予選会

小樽潮陵・桜陽高校合同チーム

男子13位

3区 葛西 区間17位

5区 土屋 区間13位

6区 下地 区間8位

7区 木下 区間8位